



梅雨の合間の太陽が眩しい夏のような一日。蝉が鳴き始めました。忙しい6月が終わり、夏が始まろうとしています。さまざまな場所で、さまざまな力を持ち寄って働く学園の大人たちの姿。子どもたちは日々、そんな大人の姿を無意識に感じ取り、温かな滋養として自分の中に重ねていくのかもしれませんが。ゆるやかに羽化し、空に羽ばたいていくそのときまで。

雨上がりのオープンデイ 2018



奇跡的に雨が上がった6月16日、オープンデイが開催されました。今年もたくさんの方にお越し頂き有難うございます。5つの体験授業、卒業生も飛び入り参加して会場を沸かせたシュタイナー教育の魅力発見講演会、この教育の可能性に触れていただけるといった一日になったのではないかな、と思っています。さて、今回は横浜のとっても楽しいお父さんたちからのレポートをお届けします！子どもたちを中心に、教員と保護者とそして多くの大人たちで活動を続ける横浜シュタイナー学園を今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

学園公開グループ 藤好千晶

～お父さん屋台の風景～

毎年6月のオープンデイには3年前からお父さんメンバーのみでカレー屋台を出店しています。3年半前の学園で行われる聖夜劇「三賢王劇」で、普段は顔を合わせる機会のないお父さん達が多く共演したことがきっかけとなり、お父さん間に連帯感が芽生えました。そして2016年のオープンデイで、初めてお父さんメンバーのみでの屋台出店を任せられました。この中で誕生したのが「グリーンカレー」です。自信をもって提供しようと、とにかく質にこだわったお父さんの秘蔵レシピ、試食会もやりました。かなりの美味、お肉無し、辛さもなくて子どもにも大丈夫と完璧に思えました。が、俄然経費を優先しなかったため、その時の利益はかわいいものでした。昨年2017年は、グリーンカレーを「横浜オープンデイ名物に！」と勝手に意気込んで出店。「去年美味しかったからまた食べたい」などと言う人がいました、お父さん皆有頂天です！「おいしい」の声数知れず、評判に手ごたえも感じるようになりました。

そして今年2018年。カレー作りだけじゃない、ニューアイデアを提唱するお父さんが現れました、「手作りで本物のジンジャーエールを作ろう！」「炭酸とお湯割りとお方やろう」「目の前で作っているところを見せよう！」「そこまでこだわるの？」「それが大事」「炭酸メーカーありますよ」「生姜は新生姜の方が旨い」といرونなお父さん。これも早速試飲会、「とっても美味しい」「生姜の味がする」と品質保証付き1杯100円で売ろうと決めました。ここで成長したのが経費計算！…「原価1杯100円の計算です！」とまさかの指摘。利益0円？お母さん達に怒られる？動揺が走りましたが、量を多くして1杯200円で売りました。「これが本当の水商売」。

3年目のカレー作りは流石に手練れてきて早い、作る途中は冗談を言い合い、売るときはお客様と会話を交わし、お客様がいない時はお父さん同士談笑。リピーターも増えた気がする。「お代わり2回目です」なんて方も。来客したお父さんには「2年後は一緒に売りに立ちましよう」とか半分本気。いや、なんて素敵な充実感。どうです、まだいらしたことの無い方、来年はお父さん屋台にぜひ一度いらしてください。カレーもジンジャーエールも本物です。華麗なるオヤジ達でお迎えます！

(3、9年保護者 鈴木直亮)



2018年度学園祭“Be Happy!” 顛末記

今年もオープンデイと同時開催で、7, 8, 9年生主催の学園祭が十日市場校舎で催されました。思春期にさしかかった子どもたちの様子が伺えるよい機会でもあります。

今から5年前、この学園の1期生が9, 10年生の時に生徒たちから「学園祭を開催したい」という要望が出されました。いわゆる「学園祭」というと一般に高校の学校行事のイメージがあります。中学生しかいないこの学園でそれが可能なのか？そもそもこの狭い校舎で行う学園祭なるものとは？なぜ、何のために学園祭を開きたいのか？当時9, 10年生担任だったわたしは、ホームルームでじっくり話し合う時間を取りました。すると、生徒たちから「最高学年として心に残る行事を自分たちで開催したい。」「この学園のことをもっと多くの人たちに知ってもらいたい。」「自分たちの力でお金を集めることができ、経済的に困っているらしい学園に寄付したい。」という言葉が次々と飛び出しました。彼らの熱意を受け、その要望に応えるべく、教員会は学園のオープンデイと同時開催する方法を提案しました。

こうして第一回学園祭の開催は実現し、それ以降、毎年前年度の3学期頃8年生が「来年度は開催するかどうか」から話し合いを始め、実行委員長を選出し、企画運営はすべて7~9年生生徒という大掛かりな学園祭の準備に取り組むようになりました。

さて、今年の9年生は自他ともに認める「コミュニケーション下手」なクラスです。学園祭の企画運営にはその苦手な「コミュニケーション」を最も必要とします。担任として、実は（もしかしたら、彼らには荷が重すぎるのでは？）と開催断念の可能性もあると予想していました。そして2月。クラスで話し合いを持ちました。教師がいるとますます口が重くなるため、生徒だけでホームルームを開く前にわたしは「学園祭は決して『やらされて』行うものではない。皆さんが『やりたくない』と思ったら開かなくてもよい。」という道を提示したうえで教室を出ました。

ホームルームが終わり、一人の女子生徒が事務室に報告に来て言いました。「学園祭、やります。わたしが実行委員長になりました。」

前年度の9年生がアドバイスした「早めに準備を進める様に」という忠告に従い、3学期中に学園祭の各部署担当リーダーが決まり、7, 8年生に参加を呼びかけ、準備は早めに始まったかに見えました。しかし、新年度に入りいよいよ準備が始まると、リーダーである9年生の「コミュニケーション下手」が力を発揮し始めました。「報(告)・連(絡)・相(談)」が上手くいれない、多く出される意見のとりまとめができないなどの出来事が続発。その上、少ない生徒数で無理なくできるように仕事の量を減らすことを「潔しとしない」生真面目さがよけいに順調な進行を妨げました。焦るばかりでそれほど進んでいないように見える準備。見守る教員たちは「大丈夫だろうか」と、ただ気を揉むばかりでした。

学園祭開催前4週間になると、放課後も残れる準備期間になります。このころになるとようやく各チームともメンバー同士や担当教員のコミュニケーションも次第に取れるようになってきました。New Worldと改名した段ボール迷路はこれまでの工法とは違った方法で作る迷路の試作を何度もしていました。縁日では毎年「これ売れるよ・・・。(ただの景品にはもったいない)」と言われるほど豪華な景品作りに日々勤しみました。

カフェは「学園祭でもお腹いっぱい食べていただけるメニュー」を目指し、多くの新作候補からチキンピラフを導入、またこれまでの学園祭カフェ名物「バイクドチーズケーキ」から「レアチーズケーキ」に変える事に決めました。保護者アドバイザーに付き添っていただき2回の試作を行い、価格を設定しました。三つの主要なチームに所属しながら有志が参加する「劇」「演奏」「展示」もあり、それぞれ空いた時間をみつけて準備を進めていました。

そしていよいよ準備日前日。十日市場校舎を学園祭の空間にするための大移動が始まりました。毎年、9年生がすべての机、椅子、棚の移動場所を把握し、7, 8年生に指示を出して全体が動きます。担任はここで9年生がどんなふう動き、指示を出すのかをドキドキしながら見ていました。すると、活動が開始したとたんわたしにわたしの心配は吹き飛びました。全員が生き生きと躍動するように動き、指示の大きな声が飛び交い、机や重い棚が次々に決められた場所へと移動していきました。この光景はまさに「自分たちの学園祭が始まるのだ」という熱に満ちたものでした。もう心配ない、今年の9年生もよきリーダーとしてこれから3日間7, 8年生を引っ張り、学園祭を成功に導くに違いない・・・。いつか、教員たちも9年生の指示に従って荷物を持って校舎中を駆け回っていました。

内部学園祭の見学の際にある保護者の方が、「学園祭は生徒主導の催しだということをご存じない低学年の保護者が多いように思います。」という言葉を残して行かれたと聞きました。もしも、学園祭が教師主導の催しだったとしたら、彼らは毎日遅くまで残って景品を作ったでしょうか。学園祭準備期間中、朝7時に登校などということをしたでしょうか。答えは否、です。むしろ教員たちが「そこまでしなくても・・・。」と言っても彼らはそうしたかったのです。何故なら彼らの意志で開催した学園祭だからです。



横浜シュタイナー学園の学園祭の伝統、「生徒がやりたいと思い、実現のために自分たちで活動すること」が今年もまたしっかりと受け継がれました。そのことを見届けに来たかのようになり6月16日土曜日の外部向け学園祭には1期生から5期生(5期生はなんと14名全員!)すべての卒業学年から何人もの先輩たちが駆けつけてくれました。

3時。学園祭が無事終了し、外部のお客様が帰られた後、卒業生に向けての最後の発表がありました。合唱も演奏も、そして劇も先輩たちの温かい拍手に応え、一番伸び伸びとしていたように思います。

そして最後に伏見先生の指揮のもと、卒業生有志と8, 9年生とで「Cosmos」の合唱。これがまた学園祭の伝統に加わるのかな、と思わせられる一場面でした。

6月19日の全体反省会と打ち上げをもって、今年の学園祭は幕を閉じます。

横浜シュタイナー学園の中学生ならではの、この行事が、また来年2月に「開催するかどうか」という話し合いから始まり、次の9年生に受け継がれていくことを高学年に関わる教員一同で見守り、応援していきたいと思っています。

親子で体験するオイリュトミー

5月13日に、昨年度よりご好評いただいております連続講座「シュタイナー学校を知りたい！」の今年度第一回目、親子オイリュトミー講座を開催しました。



5月13日曜日、シュタイナー学校を知りたい！の講座の一環として、親子で体験するオイリュトミー講座を開催しました。

幼稚園に通っているお子さんとお母さんが多く、小学2年生のお子さんもいました。

まず、子どもとお母さんが隣り合わせに、円になって座り、羊毛のボールを名前を呼びかけながら転がして届ける遊びをしました。みんな、転がるボールの行方を追いかけるのが楽しくて、笑い声いっぱい、打ち解けた様子です。神田昌実先生も一緒に入ってくださいました。

カンテレを静かに弾くとみんな静かに耳を傾けてくれます。カンテレの音色には、魔法のような力がありますね。心が引き込まれるような気持ちがします。

お護りください、
私の天使
夜も 昼も
あなたは私のそばにいる、
お護りください、私の天使

♪ ラシソラ ラシソラ ♪ ～ のメロディで歌いました。
その言葉に合わせて ゆっくりと
O の身振り、E の身振りなど、やってみます。

オイリュトミーが初めての子どもさん、初めての出会う皆さんなのに、とてもよく一緒にできました。

その後は短い詩に合わせてみんなで動いてみました。

みんなで体を動かすことはとてもたのしいことです。またオイリュトミーで使う詩は自然と、祈りのことばに近い詩が多くなります。

小さな子どもが祈りの言葉を動くのを見ながら、一緒に動くと、大人も深く心を打たれ、心を洗われた気持ちになります。保護者の皆さんも、こうして、シュタイナー教育の、真髄にあるものに触れていただけたのではないのでしょうか。

その後は、三品先生が子どもたちと一緒にすごしてください、神田昌実先生と猿谷で保護者のみなさんとお話をしました。活発なご質問、とても熱心なご意見、ご感想などが続きました。

その後、その際の参加者の方向名かをオープンデイでお見かけしました。
またお会いしたいですね。

(オイリュトミー専科教員 猿谷利加)

特別講座「こどもと暮らし」に参加して

6月3日に、なのはな園の松浦園先生をお迎えして、妊婦さん・乳幼児向けの特別講座を開催しました。

以前から興味があった、シュタイナー幼児教育を実践している「なのはな園」の松浦園先生のお話を聞くことができました。

子どもを育てるといふ当たり前のことであるにもかかわらず、今は子育てに悩む人が多い世の中。育児の本もたくさん出ていて、読めば読むほど理想と現実のギャップに頭を抱えてしまいます。そんな時、実際に子どもを育てている先生のお話をきけるといふのは本当に心強いものです。

お話の中で、子どもを育てるうえで大切にすべきこと「食べる・眠る・遊ぶ」この3つがあげられました。

その中でとても共感できたのが、今の子どもたちは空腹を感じることが少なくなってきているとお話でした。

子どもが空腹を空かせていることは、かわいそうでも何でもないこと。

体内リズムをつくるためには必要なこと。

欲を満たすことは快・満たされないことは不快。この二つを体験しなければ、快と不快が分からなくなってしまふということ。

その両極を知ることで、感謝の気持ちが生まれてくるということでした。

子どもには「感謝の気持ち」をもってほしいと常々思っていました。伝え方が分からず悪戦苦闘していました。

大人が示していれば、子どもにも伝わるのか・・・？と思いましたが、そうではなかった！！

体験は目に見えるものだけでなく、精神にも働きかけているのだということに気づかされました。私自身、児童福祉の仕事をしていましたが、思い返すと表面的なことばかりに目を向けていたことに気がつき、子どもたちに何が伝わっていたのだろうかかと反省させられました。

「眠る」ということは安心と不安を感じる

「遊ぶ」ということは喜びと悲しみを体験すること

「食べる・眠る・遊ぶ」は、ただただ体験するだけでなく、大人の関わり方、在り方で子どもの成長は大きく変わってしまうのだと感じました。

(2,4年保護者 寺本藍)

7月15日には、横浜シュタイナーこどもの園の宮地陽子先生をお迎えして、第2回目の特別講座を開催します。

詳細は、学園サイトをご覧ください。

インフォメーション

～詳細については学園サイトをご覧ください～

2019年度入学説明会

6月23日(土) [A]
14:00～16:00 霧が丘校舎

6月30日(土) [B]
10:00～12:30 十日市場校舎

【今後の日程】

9月15日(土) [A]

9月22日(土) [B]

9月23日(日) [A]

9月30日(日) [B]

※2019年度に入学をご希望の方は、A→Bの順で両方の回に必ずご出席ください。

妊婦さん・乳幼児家庭向け講演会

「こどもと暮らし」

幼児教育のプロフェッショナルをお迎えしての特別講座

日程：

第2回目 7月15日(日) 10:00～12:00

講師：宮地陽子

(横浜シュタイナーこどもの園教師)

定員：各15名

月例祭

ご希望の方に公開しております。ご興味のある方は、この機会にぜひご参加ください。

日時：2018年7月14日(土)

11:00～12:55 (開場：10:45)

会場：旭公会堂 (横浜市旭区総合庁舎4階)

参観ご希望の方は、電話、FAX、またはメールにてお申し込みください。

連続講座

「多面的シュタイナー考察」⑤ 宗教2

日時：7月16日(月祝) 13:00～15:00

講師：輿石祥三(キリスト者共同体・司祭)

ご支援ありがとうございます

(順不同・敬称略)

◎ ご寄付・・・おひさまカフェ、茶話会有志、
横須賀シュタイナー子どもの家(北村姿子)、
宮地陽子、阿曽弘美

◎ よこはま夢ファンドを通してのご支援・・・西田洋平、
大西貞弘

大切に活用させていただきます。心より感謝申し上げます。

お問合せ、お申込み先

横浜シュタイナー学園事務局

Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: gakuen-info@yokohama-steiner.jp

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替： 00260-0-130702

加入者名：特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園

ゆうちょ銀行：店番029 支店名029店(せーけいり店) 当座013702

連続講座

「シュタイナー学校を知りたい2018」

【第2回目】大人のための体験授業Ⅰ
低学年編「かずの学び」

日時：7月8日(日) 10:00～12:00

【第3回目】大人のための体験授業Ⅱ
高学年編「音響学」

日時：7月8日(日) 13:30～15:30

定員：各20名

大人のオイリュトミー

日程：7月2日(月)

2学期：9月10日、10月15日、11月5日

時間：9:15～10:45

会場：横浜シュタイナー学園 霧が丘校舎

参加費1回1,500円(NPO会員1,300円)

参加費は当日直接お支払い下さい

かぞくのフェスティバル

『こどもといっしょのくらしかた』

今年も、どうぞ、かぞくみんなで遊びに来てください。

日時：2018年8月25日(土) 10:00～15:00

会場：横浜シュタイナー学園(霧が丘校舎)

入場無料

最新情報は、学園サイトもしくは、facebookページへ。

☆星の金貨☆

オープンデイをはじめ、各種講座の際には、スクールショップ星の金貨にお立ち寄りください。

子ども達も使用している文具類の他、季節のポストカード、虹染め布、木のおもちゃ、木の器、編みぐるみ、書籍、貴石、ヴェレダ商品など取り揃えてお待ちしております。

お問い合わせ e-mail: hoshi-kinka@freeml.com

ブログ <http://hosinokinka.blog100.fc2.com/>



横浜シュタイナー学園

～Newsletter 第112号～

2018年6月26日発行

編集：広報の会

発行：NPO法人横浜シュタイナー学園

<https://yokohama-steiner.jp>

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20

TEL/FAX 045-922-3107

※掲載内容の無断転載をお断りします